

読書バリアフリーの普及啓発事例～りんごプロジェクト～

資料1-3

概要

2019年の「超福祉の学校プロジェクト」（NPO法人ピープルデザイン研究所主催・文部科学省共催）をきっかけに、2020年から開始したプロジェクト。2023年度から、文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」を受託（受託者はNPO法人ピープルデザイン研究所）。東京都の2025年度「インクルーシブな学び推進プログラム」の協力団体として登録。全国各地でアクセシブルな図書の体験会や出前授業、研修会等を開催し、「りんごの棚」の設置を通して、読書バリアフリーの普及啓発活動に取り組んでいる。障害の有無に関わらず、誰もが自分に合った読書の形を見つけ、生涯にわたり学びを継続できる環境づくりを目指している。令和7年度バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進功労者表彰において「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」を受賞。

活動実績（2025年4月1日～2026年1月31日）

体験会

実施回数 32回
うち 学校 17回
（うち特別支援学校12回）
公共図書館 5回
イベント会場10回
述べ参加人数 約2000人

研修会

実施回数 7回（研修会＋体験会の合計）
例）長野県立図書館、宇都宮市立図書館、
渋谷区立学校図書館司書など
述べ参加人数 270人

その他

「超福祉の学校@SHIBUYA 2025」
シンポジウム「学校図書館とりんごの棚の可能性～子どもたちに新たな世界を開く読書の多様性～」
述べ参加人数（シンポジウム会場）38人
※アーカイブ視聴数358回（2月12日時点）
述べ参加人数（展示）2,145人

活動成果

「りんごの棚」の設置・活用の広がり

新たに、学校図書館120館（渋谷区立学校全校、横浜市立学校）「りんごの棚」を入口として、読書バリアフリーへの理解と実践が広がった。公共図書館の新規設置把握可能な範囲で整理（全国調査等を参照）。

参加者の感想

- ・生徒が主体的に読書に向き合うには、周りに自分に合う本がある環境を築いていくことが大切と感じた。
- ・アクセシブルな図書は障害のある人だけではなく全ての人にとって必要だと思った。
- ・自分たちがアクセシブルな本を広める立場にならないといけないと思った。

今後の展望

- ・「りんごの棚」の設置を入口に、学校・図書館での読書環境の整備と、体験会・研修の継続による子どもたちの主体的な学びの広がりを進める。
- ・図書館員・教職員のサービススキル向上を支援し、棚の運用・案内・活用を含めた実践の質を高める。
- ・図書館関係者にとどまらず一般市民へ認知を広げるとともに、大活字本・LLブック・点字付きさわる絵本・布絵本等の普及を支える環境づくりを促進する。

東京都立清瀬特別支援学校での体験会（令和7年7月2日）

- ・対象：小学部2年生 31名（知的障害）
- ・2グループに分かれて、約40分ずつ実施
- ・導入説明の後、アクセシブルな図書を自由に手に取り体験

